

道徳科学習指導案

令和2年2月7日(金) 5限
第1学年 A組 20名(男子9名 女子11名)
指導者 T1 藤井 暁
T2 藤田 純江

1 主題名 D(22) 【よりよく生きる喜び】

2 資料名 『銀色のシャープペンシル』(新しい道徳1 東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

日常生活を送る中で、人は時として自分の「弱さ」に負け、自分本位な行動を取ってしまうことがある。それと同時に自分のそうした弱さに気づき、それを克服しようとする「強さ」も併せ持つ。この二面性の中で葛藤し、自らの弱さを受け止め、人として恥じない誇りのある生き方を選ぶことが大切である。生徒が、この葛藤を自分のこととして受け止め、人として自分に恥じない生き方をしようとする心情を育てたい。

(2) 生徒について

この学年は自分の弱さに向き合い、恥じない生き方を選ぶことができる生徒もいる。だが、自分に都合が悪いことに対しては、目をそらそうとする生徒や、ほかの生徒の失敗を指摘し、一方的に攻める生徒、自分の行いを正当化し、過ちを正そうとしない生徒など、自分や他者の心の弱さに向き合えない生徒が多く、自分の主張を通そうと口論になり、生徒同士のトラブルも起こっている。

そこで生徒には、自分の心の弱さに素直に向き合った上で、自分に恥じない選択をできるように指導したい。

(3) 資料について

主人公は、掃除中にごみの中から銀色のシャープペンシルを見つけ、自分のものにしてしまう。それを授業中に使っていると、本当の持ち主である友人の卓也に見つかってしまう。とっさに主人公は自分の物だと嘘をつき、あとでこっそり教室のロッカーに返しておく。しかし、帰宅しても気持ちは晴れない。そこへ卓也から電話が入る。主人公は、卓也が文句を言うために電話をしてきたと考えたが、卓也はシャープペンシルが見つかったこと、疑って申し訳なかったことを話す。謝る卓也に主人公の心が揺れ動くという内容である。

資料から、人間は、弱いところもあるがそのままでは負けない強いところもある事に気づかせたい。

(4) 指導について

前もって、本文の範読を行う。その際、主人公の気持ちが書いてあるところに線を引かせ、主人公の心の変化を抑えておく。本時の導入では、自分なら本当に謝りに行けるかどうかについて、名前カードを黒板の表に貼らせ、理由を発表させる。その上で、主人公がそのままごまかせたのに謝りに行ったのはなぜか考えさせる。生徒からは、「自分の心がすっきりしないから。」といったことが出てくると予想される。そこで、主人公は「自分自身がすっきりしたいから謝りに行くのか。」と揺さぶりをかけ、謝りに行くのは、「自分に恥じない生き方をしたいから」といったところに迫れるよう展開していきたい。

4 本時のねらい

人のシャープペンシルを自分のものにしたことを言い出せず、自分のことを正当化しようとした主人公の物語を通して、人は「弱さ・醜さ」を持つとともに「気高い心」も同時に合わせ持つことに気づき、自分の弱さを認め、気高い心を選択できる態度を育てる。

5 本時の展開

※前日に本文を朗読し、聴き終わった後に感想を書かせておく。

	生徒の学習活動 ○発問 ◎主発問 ・予想される生徒の反応	・留意点, T2 の動き ※手立て
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を要約したパワーポイントを見て本文を思い出す (V) ○ぼくが卓也の家に向かったのは何をするためだろう。 ○自分が (主人公の) ぼくだったら、 「自分は卓也に絶対にあやまりに行く。それとも、あやまりに行けないかも。」名前カードを前に貼りに来て。(口頭) ・名前カードを黒板の表に貼りに行く (多くの子があやまりに行ける方に傾くと思うが、不安も残ると予想される) ・名前カードをそこに貼った理由を発表する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・行くのは嫌だけど、行かな卓也に悪い。 ・謝らなあかんと思うけど、どうなるか不安がある。 ・謝りに行くけど、卓也にどう思われるか不安。 </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面絵を使って簡潔にまとめる ・卓也の家にあやまりに行ったことを抑える ・表の説明をする ・名前カードを貼った理由を聞く
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて：ぼくの心の変化を考えよう (S)</div> <p>展開1『ぼくの心の変化を考える』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卓也の電話があった前のぼくの気持ちと、後のぼくの気持ちを黒板の表で確認する (V) ◎ぼくのやったことは誰もやったことを知らないし、シャーペンも返した。卓也もぼくを疑っていない。黙っていても、そのままごまかせるのに、なんでぼくは卓也の家に向かったのか。ペアで考えて発表して。(口頭) (Sh) <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>山場：・このまま黙っていたら、自分自身が後悔してしまう。 ・自分の心の中にもやもやが残ってしまう。 ・このままでは、卓也と普通に会話できない。 ・卓也に対する罪悪感が残ってしまう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板の表を使って、ぼくの気持ちの変化を捉えさせる ・自分自身がすっきりしないことを捉えさせる
展開	<p>展開2『卓也の家に向かった心情についてさらに考える』 (S)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○じゃあ、ぼくは「自分自身のもやもやを取り除きたいから」「謝って、すっきりしたいから」「罪悪感を解消して安心したいから」卓也の家にあやまりに行ったんだね。(口頭) ※カッコはひとつ前の発問で生徒から出た意見を使う <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・そうだと思う。 ・それもあるけど、何か違う気がする。 </div> (何か違う気がする。という意見が出ると予想される) ○じゃあ、どうして行ったんだろう。班になって考えてみよう。(口頭) (Sh) ・班になって話し合う ・班で出た意見を発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身がすっきりするためではなく、自分に恥ずかしくない生き方を選ぶことに目を向けさせる (T2) T1 と共に、班の意見を取り上げ、発表の際に言うよう促す ・ひとまず、出ている意見を発表させる ・班の意見を聞く際、ほかの班も同じ意

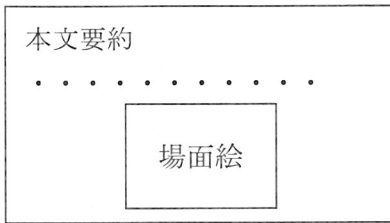
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・再度、班で話し合う ・班で出た意見を発表する ・胸を張って、堂々と生きていきたい。 ・自分をごまかしたくない。 ・このままでは、人としてだめだ。ここで、自分を変えるんだ。 ・びくびくした生き方をしたくない。 	<p>見がなかったか聞く ※話し合いが進んでないようであれば、 ぼくの心に「ずるいぞ」という言葉が 残り続けているのはどうしてかを考え させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの意見も参考に話し合わせる ・班の意見を聞く際、ほかの班も同じ意見がなかったか聞く
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの自分の経験の中で、今日のような話がなかったか振り返らせる

ユニバーサルデザイン化された授業の観点：焦点化（S），視覚化（V），共有化（Sh）

6 本授業での重点とされる評価の視点

- 自分の心を安心させるためだけではなく、人として恥じない生き方をすることを色々な言葉で表現できるか。
- 学習したことをもとに、自分の経験を振り返り、自分の生き方について考えられるか。

7 板書計画
スクリーン



黒板

めあて：ぼくの心の変化を考えよう。

絶対あやまりに行く あやまりに行けないかも

○なぜ、ぼくは卓也の家 に向かったのか
○ぼくはどうして行ったのか

.....
.....
.....
.....
.....
.....

